Hand Hygiene
手洗王
ICT Monthly
発行：感染制御部
no. 280
2019.11

U=U(Undetectable=Untransmittable)をご存知ですか？

“U=U”とは、適切なHIV治療を受け、血液中のHIV量が“Undetectable”、すなわち検出感度未満のレベルにまで抑えられ、その状態が続いているHIV感染者からは、性行為によってHIVが他者に感染することがない(“Untransmittable”)、ということを表す言葉で、HIV感染者の心理的負担や差別を減らすためのメッセージであり、HIVに対する理解を広げるキャンペーンの1つです。この“U=U”は、いくつかの国際的な大規模研究からエビデンスが得られており、日本エイズ学会も“U=U”キャンペーンを支持しています。

昨年公開された映画「ボヘミアンラプソディ」内で、主役であり伝説的ロックバンドQueenのボーカリスト、フレディ・マーキュリーに対してHIVに感染していること、治療法が無い病気であることを医師が告げるシーンがありました。映画はこの後、最大の見せ場であるライブエイドでのパフォーマンスシーンを圧巻のクオリティで再現し、観客を魅了した後に、フレディの死について少し触れて幕を閉じます。

映画内ではHIV感染者が置かれた当時の社会的状況に触れられることは、ほぼありませんでしたが、実際にはどのような時代だったのでしょうか？1981年6月、米国で最初の症例が報告されると、ゲイコミュニティでの感染者が多かったことから、1982年には「ゲイ関連免疫不全」といった名称も使用され*1、社会から排斥するような事態が起こりました。 その後、病態の解明や治療法の開発が進みましたが、エイズ患者への差別と偏見がすぐには解消されず、「不道徳な性行為による自業自得」「同性愛という罪に対する神と自然の罰」や「“奴らの問題”であり“私たちの問題”ではない」といった考え方が当事者を苦しめていた時代でした。

HIV感染症・エイズに関する世論調査

		1991年	2017年
感染経路	HIV感染者を刺した蚊に刺される	62.4%	24.9%
	HIV感染者と回し飲み	44.8%	14.5%
原因不明で治療法がない		データなし	33.6%

では、30年以上経った現在はどうなっているでしょうか。日本国内でも様々な啓発イベントが行われていますが、内閣府が行ったHIV感染症・エイズの印象についての世論調査*2で、表のように医学的知識が多少なりとも広まりつつあります。

一方で、HIV感染者に対する就業差別は未だに発生しており、本年６月に日本エイズ学会は「HIV感染を理由とした就業差別の廃絶に向けた声明」を出しています。

12月1日は世界エイズデイです。医療者である我々から、“U=U”を広めませんか。

＊1 モダンメディア 60 巻 9 号 2014[人類と感染症との闘い]277
＊2 内閣府HPより